

# 議会だより 秀峰

第123号

平成22年3月定例会

発行日/平成22年4月30日

責任者 議会議長 下村芳章  
編集 議会広報編集特別委員会  
事務局 大豊町高須231  
電話 0887-72-0450

## 第426回 平成22年3月定例会

一般質問

### ユズ搾汁施設の建設について

問 搾汁施設建設は計画が不十分ではないか  
答 雇用増大、ユズ価格維持に必要である



小笠原春行 議員

最初に、第6次大豊町総合計画について。今議会に提案された第6次大豊町総合計画案において、住民福祉、農業、林業、それに伴う経済振興策、自主財源の確保など町民が安心して生活できる、また我々の先人が幾千年の歴史を築き守ってきた大豊の現実を守り、将来に引き継いでいくため、町として今後5年間で取り組む大事な指針が策定されている。

渡辺町長時代には、こうした制度を最大限活用することによって、大豊町の衰退を食い止め、町発展につなげていくという理念の下、百億円余りの投資をし、将来の大豊町に夢を抱いて努力された。しかし、時代の流れには逆らえず、地方の衰退はどんどん加速したが、その後の畑山町長も前任者の意思で投資された施設を受け継ぎ努力されていた。

設され、その度に地方の県、市町村はその財源導入により多額の借金をし、現在その返済に追われている。

特に、貴重な国民の税金を投入し、建設した施設については、後任の町長はその志を受け継ぎ活用していくことで最大の財政効果を生むと思われる。



ゆとりファームによる農作業

るが、岩崎町長は就任以来、21世紀センターは廃館にし、ゆとりすとパーク、山荘梶ヶ森は東京の指定管理者に管理委託をし、本町の拠点観光施設は休眠状態である。今議会に提出された第6次総合計画を見ると、三代前の町長の施策と全く同じであり、町の現状にも何の変化もない。町民の毎

日の生活、町の経済に効果をもたらす行政は必要だが、町長として大豊町の計画を立てること、百年の計が政治を行うものに要求されることである。

昨年の9月議会で「岩崎町長としての将来の大豊の町づくりについて」私が質問した中で、平成22年には計画を提出する

との答弁があり、大変期待していたが残念な結果となった。なお、この第6次総合計画は町内の全戸に配布されるようお願いする。

次に、平成22年度当初予算にある大豊中学校校舎の解体工事について伺う。土佐れいほく農協のユズ搾汁施設に中学校跡地を提供することだが、岩崎町長就任後、3億円あまりの投資により現在の搾汁施設を整備し、その後は順調に稼働しており、今回の施設建設は突然のことと理解できな

い。東西豊永地区の地域づくりの拠点として学校建物を活用し、また大豊ゆとりファームを中心とした大豊の農業のブランド化、それに伴う若者定住を促進する計画を私は絶えず提言しており、残念である。町長が持つ総合調整権は町長個人や特定の関係者のためのものではなく、住民の福祉向上のために与えられた権利である。

中学校跡地は、東西豊永地区の将来を計画する上で必要不可欠な土地であり、地域はもとより町全体の重要な財産であることから、事前に特定の関係者のみと話し合い、事業を進めたことは甚だ遺憾である。この計画は、本町の将来の明暗を分ける大事な施策であり、なぜ議会と事前協議をしなかったか、残念に思う。

次に、関連のあるユズ施設への補助金について伺う。競争力強化生産総合対策事業費補助金という項目で、ユズ搾汁施設への補助金として5億1205万円が予算計上されているが、5、6年前に現在の搾汁施設に3億円あまりを投入しているのに、再びその倍近い投資をし、施設を移転しなければいけないとは、当時の計画に疑問を持つ。

ユズは短年で実るものではなく、農協の計画が甘かったのか、また今回の事業は町からの要請によるものか、いずれにして

も先行きが不透明な事業である。

また、各議員に議案が送付された3日後に施設建設の計画説明書が送付されたが、現在のような農業環境の厳しい時期に、ユズ製品の販路拡大や農家のユズ収穫にかかわる労働力の確保なども計画されておらず、現実だけをとらえた計画であり、負担の多い大豊町の議会に事前の説明もなく甚だ心外である。このような行政の在り方は、議会軽視、住民不在以外の何者でもないと申し上げ、これに対する町長の考えを問う。



岩崎 町長

現在大豊町では、約4百戸の農家がユズを出荷している。町全体の世帯数が約2千戸であることを考えると、いかに多くの農家がユズ生産に携

わっているかが分かる。

ユズの生産量が非常に多くなっているとの新聞報道もあったが、ユズは永年作物であり、町内ではここ数年で1万本を超える新植がされていることを考えると、農家の所得を上げるためには、加工率を向上することが必要である。現在、生産量に対して加工率が20%に満たない状況であり、これを50%程度にまで上げることで、加工所での雇用増大、ユズ価格の維持につながる可能性があることから、加工施設は必要と判断し、今回の提案に至った。

### 小笠原春行議員

町長より答弁を頂いたが、願わくば、岩崎町政がこれからの大豊町を維持し大きな荷物を残すのではなく、町長として政治の足跡が残るよう、町民の期待に応えるよう要望する。

一般質問

### 21世紀センターの活用について

問 21世紀センターの有効利用策はあるか  
答 重要な場所であり活用を検討する



新しく植えられたユズの苗木 (和田地内)

小笠原春行議員  
次に、大豊ゆとりファームを中心とした農業振興計画について。町長は任期一期末の町財政が最も

厳しい時に、農業、農家、農地を守るためとして、当時約2千万円の赤字経営をしていた大豊ゆとりファームに5千万円の投